

# 一人ひとりの自立をめざした学級づくり

## ～エンカウンターをとりいれた学級づくりの実践～

祝小学校 有井 千恵子

### 1. 第1学年 学級活動

題材 「じぶんのことを もっとしてもらおう」

活動内容 (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全  
(ウ) 望ましい人間関係の育成

### 2. 題材について

#### (1) 児童の実態

男子8名、女子3名、計11名のクラスで、元気で明るく素直な児童が多い。

11名中8名が校区の保育園を卒園し、3名がそれぞれ異なる園から入学したので、入学当初は不安を感じていた児童も見られた。1学期の前半は、学校の生活に慣れることや友だちと関わりをもち学校が楽しいと感じられるような雰囲気作りを心がけ、場を捉えて褒めることと学校のきまりを丁寧に指導することをしてきた。1学期後半には、学校生活にも慣れ、学習や係や当番活動にも楽しくとりくめるようになった。また、少人数学級の利点を活かして、1時間に1回以上は発言するようにしているが、緊張が強く、自信がないときには泣いてしまう児童も見られる。

Q-Uアンケートの結果は、学級生活満足群に11名が属しており、学級の現状は、ルール・リレーションの確立度も高い。しかし、児童間の関わりはまだ浅く、自分のことや気持ちを進んで伝えることが苦手な児童も見られる。

#### (2) 題材設定の理由

自分のことや思っていることを友だちに伝えることが苦手な児童が、クラスの中で自己開示をし、友だちが温かく受容することで、互いに知り合い他者理解を深め、よりあたたかな人間関係を築いていきたいと考え本題材を設定した。また、自分のことを知ってもらうとともに友だちのことを知ることで、互いのよさやがんばりを認め、児童間の関係を深めていきたいと考える。

「じぶんのことを もっとしてもらおう」では、〇×ゲームを取り入れ、楽しみながらリレーションづくりができると思われる。

### 3. 題材の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
自分のことを知ってもらうために意欲的に〇×ゲームの問題を出したり、	自分のことをよく知ってもらうための問題を考えることができる。 (本時までには、問題を考えておく	友だちのことを今まで以上に知ることができる。

○×ゲームに進んで答えようとしたりしている。	ようにする。 ○×ゲームの答えを考えることができる。	
------------------------	-------------------------------	--

4. 題材のねらい

- ◇自分のことを知ってもらうための○×ゲームの問題を考え、友だちに答えてもらう喜びを味わう。(本時までには、問題を考えておくようにする。)
- ◇○×ゲームを楽しみながら、友だちへの理解を深めることができる。
- ◇友だちのよさやがんばりを認め、あたたかな人間関係を築くことができる。

5. 事前の活動

- ◇業前の時間などを使って「じぶんのことを もっとしてもらおう かあど」を記入し、問題を考えておく。友だちには、分からないようにしておく。
- ◇○×ゲームに慣れるよう短時間で遊んでおく。
- ◇○×ゲームの問題を考え、プリントに記入しておく。

6. 本時の学習

(1) 本時の題材 「じぶんのことを もっとしてもらおう」

(2) 本時のねらい

- ・自分のことを知ってもらうための○×ゲームの問題を出題し、友だちに答えてもらう喜びを味わう。
- ・○×ゲームを楽しみながら、友だちへの理解を深めることができる。
- ・友だちのよさやがんばりを認め、あたたかな人間関係を築くことができる。

(3) 展 開

	学習活動	指導上の留意点	◆ 評価方法他
導 入  6 分	○参観の先生方と「アウチ」をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に机を運び活動の場を作っておく。</li> <li>・コミュニケーションを図り緊張を取り除けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆活動への関心や意欲をもつことができる。(行動観察)</li> </ul>
	<p>1 遊び方を知る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>①自分を知ってもらうための○×ゲームの問題を出す練習をする。</p> <p>②順番に問題を出し合う。 出題者は、正解と説明を言う。</p> </div> <p>2 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇じぶんのことを もっとしてもらおう。</p> <p>◇ともだちのことを もっとしろ。</p> </div>		

<p>展 開</p> <p>25 分</p>	<p>3 問題の出し方のお手本を見て、自分の問題を出す練習をする。</p> <p>4 出題する順番を決める。</p> <p>5 ①順番に前に出て、問題を出す。 ②答えを予想し、○側か×側かに動く。 ③出題者は、正解と説明を言う。 ④全員が問題を出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例示を示し説明する。</li> <li>・友だちにわからないように留意させる。</li> <li>・「～なんですか。」のような問いや、「～は、○です。」のような正解を言わないよう声かけをする。</li> <li>・友だちの問題をよく聞き、友だちのことができたという喜びを味わわせる。自分のことははっきりと言えるようにする。</li> <li>・正解と説明が言えない児童には、個別に支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題カード</li> <li>◆自分のことをよく知ってもらうために意欲的に問題を出したり、進んで答えようとしている。(行動観察)</li> <li>◆○×ゲームの答えを考えることができる。(行動観察)</li> </ul>
<p>ま と め</p> <p>14 分</p>	<p>6 活動を振り返り、振り返りカードに書く。</p> <p>7 友だちと今まで以上に仲良くなれたことを喜び合い、何でも言い合えるクラスにしていくことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員で輪になって座り感想を聞く。</li> <li>・出題者や回答者としてがんばったことを賞賛する。</li> <li>・机を運びカードに書くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカード</li> <li>◆自分のことをよく知ることができる。友だちのことを今まで以上に知ることができる。(振り返りカード)</li> </ul>

(4) 評価

◇自分のことを知ってもらうために問題を考え、友だちに答えてもらう喜びを味わうことができたか。

◇〇×ゲームを楽しみながら、友だちへの理解を深めることができたか。

◇友だちのよさやがんばりを認め、あたたかな人間関係を築くことができたか。

7. 参考資料

○『エンカウンターで学級が変わる③』小学校編

<図書文化>

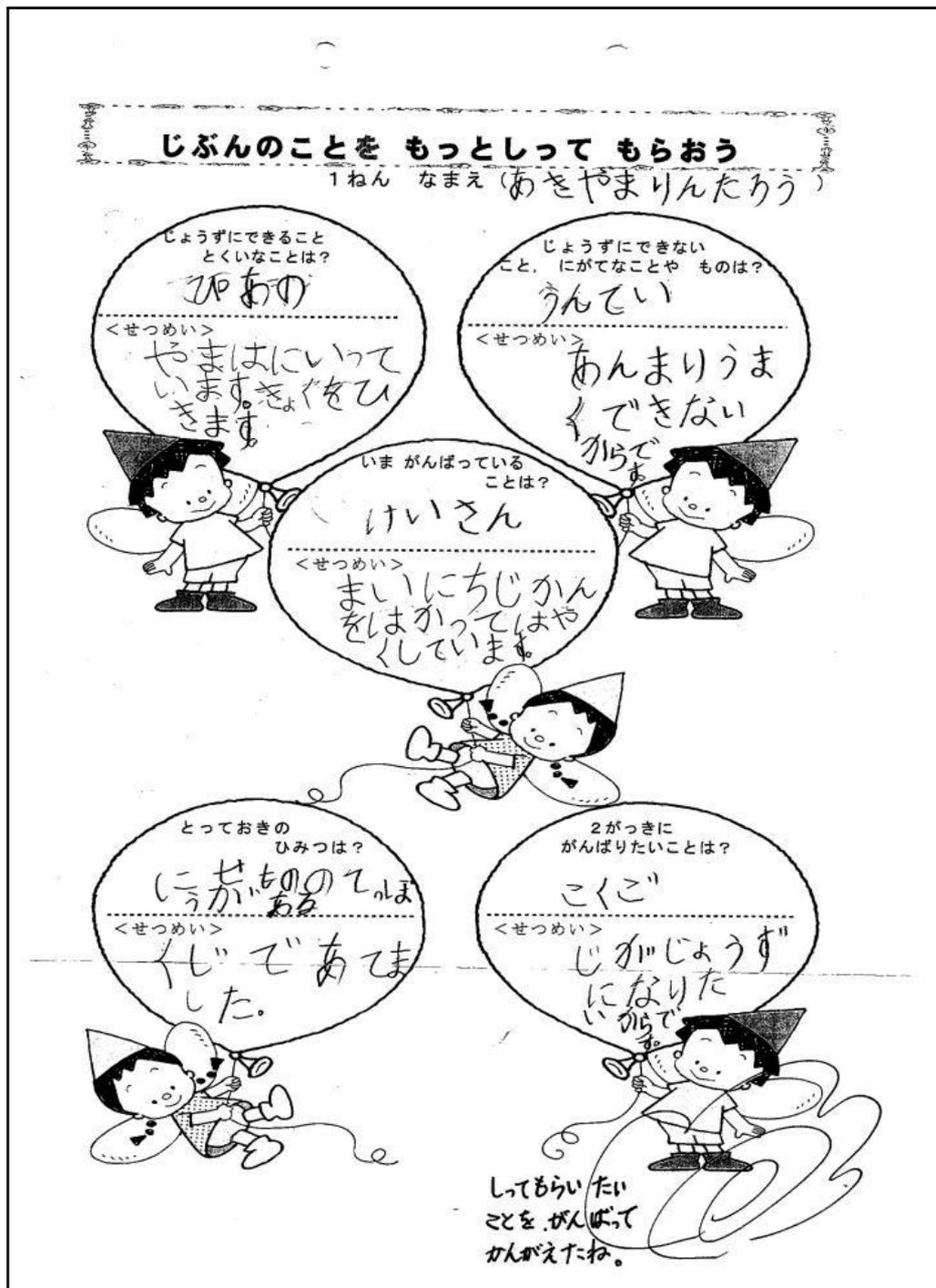
監修；國分康孝

編集；河村茂雄

品田笑子

朝日朋子

國分久子



じぶんのことをもっとしてもらおう  
もんだいかあと

1ねん なまえ(あきやまりんたか)

2 **もんめ**をだします  
\*こたえを ○にしたいばあい  
「おまのぼく」の **いまがけんはっていること** は、  
「**しけんがあと**」です。○か?×か?  
↑  
しつてもらおうかあとに かいしたこと

みんながうごいたら、  
\*こたえは、○です。  
「まいにちじけんをはかっ  
てはやしています。」  
↑  
せつめいしたいこと **おねがいます**

× \*こたえを ×にしたいばあい  
「わたしの」  は、  
 です。○か?×か?  
↑  
しつてもらおうかあとと ちがうこと

みんながうごいたら、  
「こたえは、×です。せいはいは、  
↑  
しつてもらおうかあとに かいしたこと

↑  
せつめいしたいこと

じぶんのことをもっとしてもらおう  
ふりかえりかあと

1ねん なまえ(しむらこうが)

1 きょうのげえむは、たのしかったですか。  
とでもたのしかった たのしかった あまりたのしくなかった

2 じぶんのことを みんなにつたえることが できましたか。  
よくできた できた あまりできなかった

3 みんなのことが よくわかりましたか。  
よくわかった わかった あまりわからなかった

4 おもったことを かきましょう。  
①じぶんのことを しつてもらった きもち  
②ともだちのことで あたらしく したること  
③おどろいたこと  
④よかったこと など

りんたろうくんのつとあのかいしよう  
ずでよくわかったのでまたぎぎ  
たいです。それからおれいしょに  
ながめてくらしたいです。



## 8. 研究会から

(1) 研究テーマ「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」に迫る授業であったか。どんな有効な手立てが見られたか。

- ・友だちのことをもっと知りたいという気持ちになれるよい時間となっていた。
- ・長く一緒にいても知らないこともあるので、改めて知る良い機会になった。
- ・○×の答えだけでなく、その後の説明があつてよかった。わかったことが深まった。
- ・教師のお手本がわかりやすく、子どもたちをのせていた。
- ・説明、実演、教師のプラスの言葉がけが、有効な手立てであった。
- ・よいところ、苦手なこと全てにOKが出せていて、人間関係づくりにとてもよかった。
- ・問題を出す順番についても、児童の話し合いで決め、自治の力に繋げていた。

- ・教師からの児童を肯定する言葉がけや温かい一言一言がとても適切であった。
- ・振り返りで,少人数で丸くなってシェアリングする場面がよかった。
- ・有効な手立て
  - 温かい関係づくり。言葉がけ。
  - 教師の手本。
  - 〇×グッズの活用やワークシートの工夫（説明をつける。）
  - 児童の実演を取り入れる,
  - シェアリング,場の工夫

(2) 学習活動は,子どもたちの実態に合っていたか。

- ・指導案やワークシートが,指導案検討の内容を活かし,改善・工夫されていて有効だった。事前に問題を考え,各自練習しておいたので,本時の活動がスムーズに流れた。
- ・生き生きとした子どもたちの様子から,学習活動は,子どもたちの実態に合っていた。

(3) ねらいは, 達成できたか。

- ・感想で多くの児童が, 友だちのことに目を向けて書いていた。
- ・自分のことを知ってもらい喜ぶ感想も多くあった。
- ・子どもたちの様子から,〇×ゲームを楽しみながら, 友だちのことを知ることができていた。
- ・子どもたちの中からも,友だちの様子をしっかりと見取っている眩きがあった。友だちのよさやがんばりを知ることができた。

(4) その他

- ・子どもたちの様子から,のびのびしていて, 自分の気持ちをしっかりと出しているクラスだった。
- ・教師の問いかけに対する子どもたちの反応がとてもよく,学習規律がしっかりとっていて, 教師との信頼関係。子ども同士のつながりがとてもよかった。

(5) 指導・助言

- ・温かい人間関係づくりは, 教師の温かい声かけが一番大切であり, とてもよかった。友だちのことを素直に受け止める, 子どもたちとクラスの素直さがあった。
- ・動きを取り入れた授業がよかった。
- ・時間の都合で, 一人2問出題から1問になってしまったときの教師の「ごめんね。」も温かい言葉であった。変更してよかった。
- ・自己開示が一過性のものではなく, 今後に繋がっていけばよい。見える化することも大切である。
- ・自分が失敗してしまったことを出させる工夫もある。
- ・自分のことを一生懸命知らせようとして友だちが聞いてくれると, 友だちのことも聞きたくなる。聞く人が相手のことを認める態度がとてもよい。
- ・自分の思いを, 体・声・ジェスチャーで表現しているので, それを教師がひろうこと

とができていた。

- ・発表の中で新しい気づきがありよかった。木琴や空手やピアノの発表は、児童の知的財産である。聞いている側にもためになるものである。
- ・子ども同士の関わりを意図的に作っていくが大切である。

## 9. 成果と課題

### (1) 児童の感想（ワークシートの記述から）

- ・〇〇くんのぴあのがじょうずで よくわかったので、またききたいです。これからいっしょになかよく くらしたいです。
- ・ともだちのひみつが わかった。〇〇くんのひみつきちがあったのが、びっくりした。たのしかった。
- ・さいこうの いちにちになりました。みんなうれしそうだったです。とてもたのしかったです。
- ・みんなのことが よくわかった。みんなに じぶんのことをおしえられてよかった。
- ・うれしかったです。〇〇さんがモンスターボールをもっていることや、〇〇くんが、からてをみせてくれたことや、みんなのmondaiがとてもおもしろかったです。
- ・びっくりしました。〇〇さんが、かっこよかったです。〇〇さんのピアノが、じょうずだったです。
- ・じぶんのことをしてもらって、うれしかったです。みんなでできてうれしかったです。
- ・ひみつをはなせて すっきりしました。ともだちのことがよくわかって よかったです。ともだちにぼくのことをしてもらって よかったです。
- ・みんなのことがよくしれて、うれしかったです。みんながうごいてくれて、うれしいきもちになりました。みんなおおきなこえで きこえました。

### (2) 成果

- ・この学習を通して、子どもたちのがんばりやよさ、学級のよさを児童・担任共に再確認することができた。また、新たに知ったことも多く、友だちから認められた安心感から、児童間の関係をより深めることができた。
- ・一人ひとりが自立するためには、学級が一人ひとりを受け入れ、認め合うことが大切であり、エンカウンターをとりいれた本授業で、友だちへの理解を深め、児童間の親密性を増すことができよかった。
- ・教師が、児童との関わりを日常から多くもち、児童それぞれのよさやがんばりを、教師が知り、認め、よりよい言葉がけをすることの大切さがわかった。
- ・少人数学級ということもあり、事前の活動の個人対応が丁寧にでき、実演もとりいれることができた。
- ・授業後の変容として、休み時間に友だちを遊びに誘ったり、みんなで遊ぼうと声かけをしたりする児童が増えてきた。全員発言を続けているが、自分の考えがまとまらなくても泣いたり黙ってしまったりすることがなくなった。
- ・授業で出題できなかった問題を、後日、学活の時間に実施した。2学期にがんばりたいこ

とを出題した児童に、「〇〇くんなら、できるとおもう。」と励ましの言葉を言ったり、苦手なことを出題した児童に、「〇〇くん、じょうずだよ。」と自信をもたせる言葉を言ったりする児童が見られた。

- ・助言いただいた「ワークシートを掲示し見える化」を図ってみた。関心をもって何度も見たり、他学年の児童も読んだりして(廊下に掲示したため)、児童のよさやがんばりが、さらに深く広く理解してもらえるようになると思う。

### (3) 課題

- ・時間設定が甘く、途中から2問出題を1問に変更したので、始めから一問出題にした方がよかった。
- ・自己開示が一過性のものにならないよう、今後も手立てを考えていきたい。
- ・帰りの会で実施している「ほめほめことばのシャワー」に、工夫をとり入れ、一人ひとりのよいところを、もっと見つけていきたい。

